

町長室から

め

つきり秋の装いが進み、秋
風が吹くようになりました。

新型インフルエンザの感染拡大が進んでいますが、これまで国内で入院した患者さんの75%が20歳未満の若者であり、男性が6割を占めているようです。町民の皆さんには、是非、うがいと手洗いの励行に気をつけていただきたいと思います。新型インフルエンザの疑いがあり、町立病院へ行かれる方は、待合室での感染を防ぐために診察室を別棟で行い、緊急時を除いて、診察時間を制限させていただいているので、必ず電話をしてから受診してください。

6月の日照不足と7月の例年の3倍にもなる雨量により農業の被害が広がっていますが、これから天候によつては回復する作物もあることから農家の皆さんは望みを捨てないで農作業を行っていますので、「異常気象に伴う農作物冷害対策会議」を設置して、関係機関の連絡強化を図るとともに、緊急対策として、次年度の営農に対する土地基盤整備事業を行うこといたしました。基幹産業の不振は町全体の経済に大きく影響を及ぼしますので大変心配な状況で

す。

浦幌乳業の将来を考え、株式を森永乳業へ譲渡することとなりました。詳細は、本号に掲載しております行政報告をお読みいただきたいと思いますが、第3セクターとして浦幌乳業の事業継続を決断し、これまで発展させてきた経営者及び社員の皆さんと関係者の皆さんに心より敬意と感謝を申し上げたいと

思います。

各地で敬老会が開催されていますが、高齢者スポーツ大会もそうですが、お元気な姿を見ていますと背中を後押ししていました。敬老祝い金と感謝状を贈呈されます。先日88歳の米寿の方と100歳の誕生日を迎えた方には、敬老祝い金と感謝状を贈呈されました。米寿の方は28名で、100歳の方は1名、100歳以上の方は3名おられ、いつまでもお元気で長生きしてくださいとお話をさせていただきました。

留真の里交流施設の住民説明会を4カ所で開催しましたが、参加人数が少なかつたのが残念でした。

同じまちづくり交付金事業で行っている産業交流施設つまり



「ほろま」



「うらは」

浦幌町長 水澤一廣

道の駅が9月11日にオープンしました。北海道で109番目となる道の駅で開町110年の年にオーブンすることになりました。道の駅につきましては、平成15年に策定された「浦幌町都市計画マスター・プラン・町づくりの目標」の中で、重点的取り組み事項として取り上げられたことから始まり、6年がかりで実現したものです。

子どもたちが教育プログラム

の中で考えたキャラクターの「うらは」と「ほろま」をシンボルマークとしていますが、本市は山あり、海あり、川ありと山紫水明の地であり、産する食材は1年を通じて多様でありますので、この道の駅が町民の皆さんとの日頃の創作活動の成果や季節の山菜や魚介類を持ち寄つて町民が集い、道行く人たちとの交流の場ができる、町内への導線づくりとなつて、町の活性化につながる本来の目的を果たしながら発展していくことを願つていいところです。

うらほろ野鳥図鑑

No. 142 アオジ (ホオジロ科)

L 16 W 22

【夏鳥】

スズメより大きい。背側は淡茶色に黒のたて斑。腹側は黄色。目先が黒い。

●フィールドノート 【帶富】

有名な三大美声に負けず劣らずの声をもち、黒と黄色の鮮やかな容姿にもかかわらず、出会いの感動はうすい…。それはひとえに、その数の多さが要因であろう。

byトリおばさん

